

初回入院など軽度な患者向けの 急性期治療病棟を増築

うつ病や認知症の急増に対応

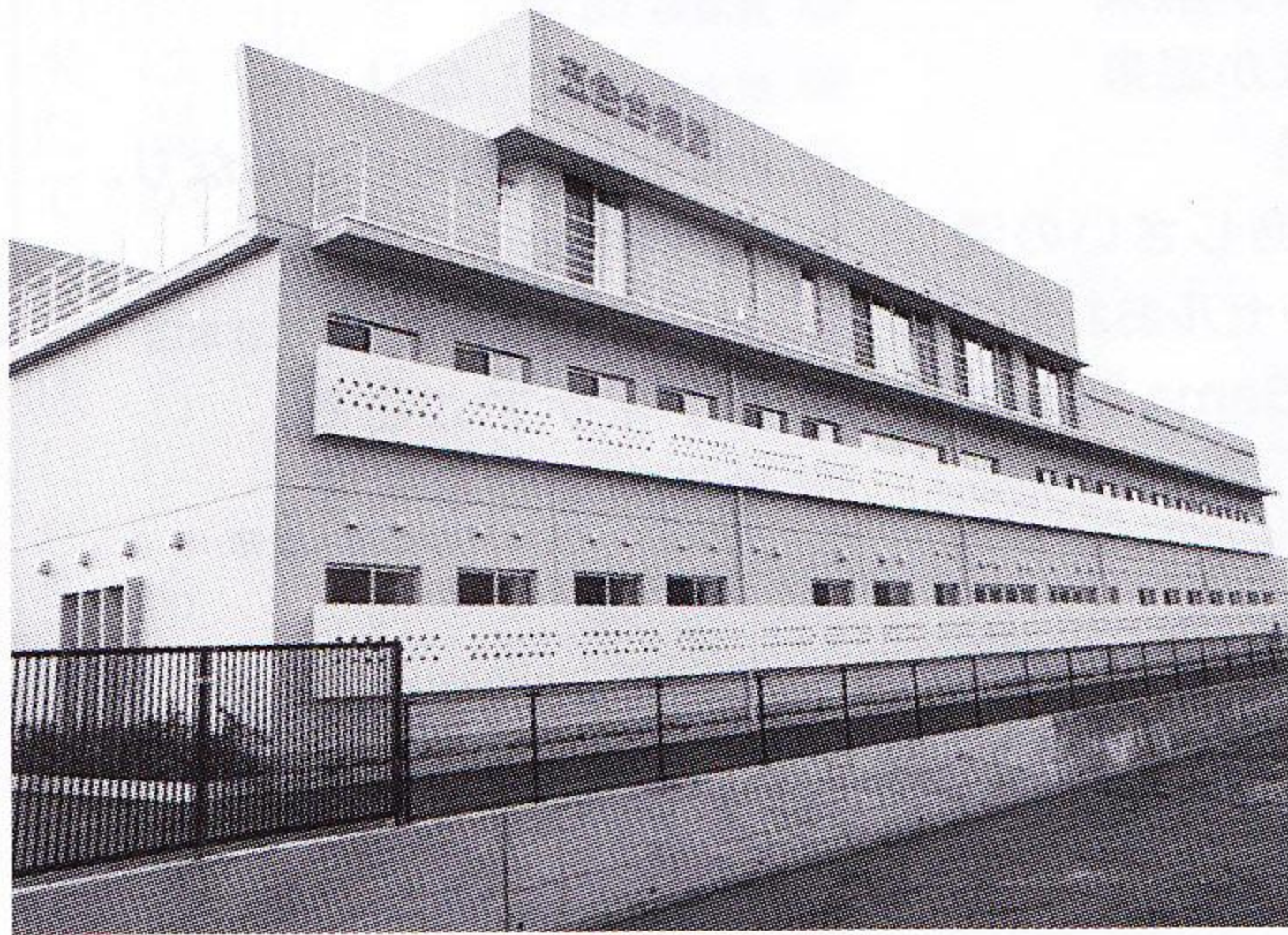
五色台病院

精神科・心療内科の五色台病院（坂出市加茂町九六三 佐藤 仁院長）は、精神科急性期病棟を増築。12月13日より入院の受け入れを始めた。

精神科の専門病床は、精神科救急・急性期治療・精神療養と症状によって区分されている。急性期治療（病棟）は初回入院など軽度な患者向けのもので、三ヶ月以内の退院を指して短期集中治療を行う。

既存病棟東側に増築した新病棟は三階建てで、延床面積が一七二二㎡。一・二階は病棟（四〇床）とナースステーション、三階に会議室など病院運営の機能を配置する。

設計は(有)エノキ建築事務所（高松



市）、施工を(株)合田工務店（高松市）が担当した。

急性期病棟では、統合失調症をはじめ躁うつ病・神経症・ストレス障害、子供の発達障害、老人性認知症、アルコール中毒など多岐にわたる精神疾患の治療にあたる。そのため、症状や回復状態によって病床のゾーン区分を行わないと、治療効果を望めないケースがある。

しかし建物の制約などで、多くの精神科病院では細かな区分が出来ていないのが現状だ。

今回、同病院が開設した新病棟では、精神疾患の軽度・重度、老人、ストレスケア、回復期向けと5ゾーンに明確に区分した。これにより例えば、回復期にあるストレスケアの患者が重度の精神疾患患者と同じゾーンになることがなく、スムーズな回

復を促すことができる。

施設内は木質感を前面に出した温もりを感じられるもの。喫煙者が入院でストレスをためないように配慮した喫煙所など、入院患者の心地よさを第一に考えた設備内容としている。

同病院では、既存の急性期病床は三二床あったが、今回の増築で旧病床は精神療養向けに転換した。

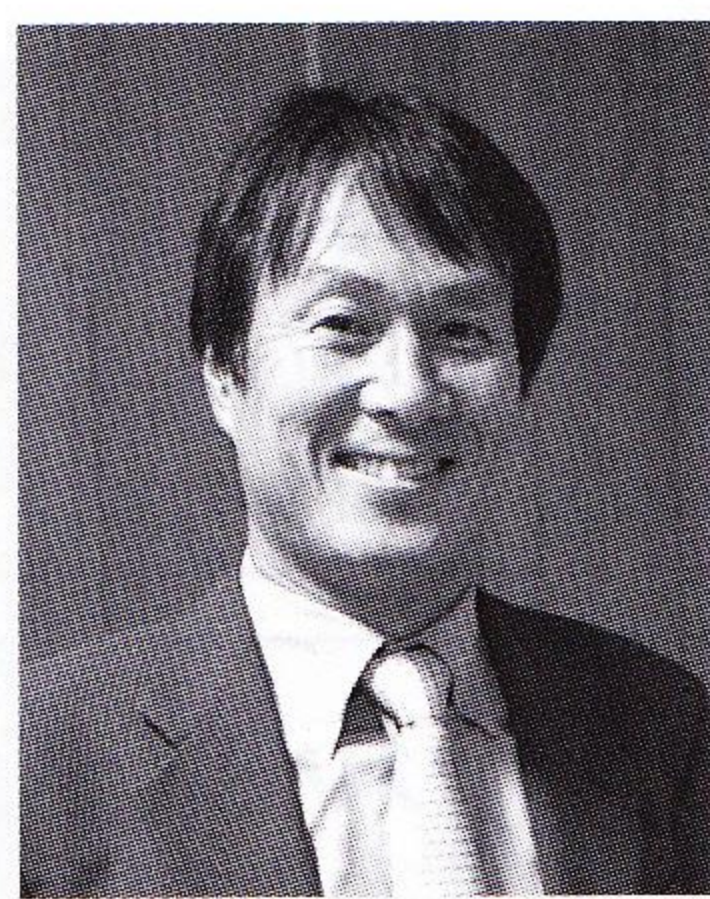
五色台病院は、昭和53年に開院。平成15年に児童・思春期専門の五色台クリニック（高松市）、18年にJ R坂出駅南側に坂出メンタルクリニックを開院している。また坂出市内にグループホーム、介護老人保健施設、指定居宅介護支援事業所など計11施設、全五二四床を有する。外来から入院、社会復帰へ至る施設が充実しており、地域医療の中核施設としての役割を担っている。

ビジネス現場でうつ病が増加

精神疾患により医療機関にかかる患者数は近年大幅に増加し、平成20年には三二三人に上っている。疾患ではうつ病や認知症の増加が顕著であり、ビジネス社会ではうつ病対策の重要度が高まっている。

佐藤院長は、ビジネスマンのメンタルヘルス（心の健康）について、次のようにアドバイスする。

「ストレスの度合いを簡便に把握できるチェックシートはあくまで目安ですから、安心するために利用しないように。生活で感じる不調は、精神的なものが原因か、体調によるものかを見極めるのは、医師でも難しいものです。



風邪など身近な病気と同じように、精神疾患も早期受診・早期治療が原則です。とはいえ、精神科受診に抵抗を感じる方もおられるでしょう。

当院では医療相談室を開設しており、不安を抱える方の電話相談にも応じています。電話相談で随分気が楽になった、受診に前向きになったという方もおられます。

精神の不調を感じたら、医療機関が開設する、こうした相談室の利用を検討してください」

売上目標の重圧やリストラの不安、転勤や昇進など、ビジネスマンのメンタルヘルスは常にストレスにさらされている。新年を迎え、会社の発展を期すには、社員のヘルスケアも考える必要があるだろう。

〇八七七―四八―二七〇〇
<http://www.goshikidai.or.jp/>